



## ②果実をカウントする

その場所から双眼鏡で樹冠を観察し、秒数を決めて視界に入る果実の数をカウントします。ミズナラやコナラなどのように、比較的果実を見つけにくい樹種は30秒、クリやブナのように見つけやすい樹種は15秒でよいでしょう。ミズキやタカノツメ等の樹種は果序（房）の数を数えるようにします。

## ③カウントを繰り返す

この測定は、立つ場所を変えながら3回以上繰り返し、得られたカウント数を平均します。最低6回繰り返すと、カウントの平均値が安定します。

## ④結実密度に換算する

図2のように、双眼鏡でのカウント数は、その木の樹冠下に落下する果実密度と比例する関係があります。そこで、カウント数を観察秒数で割って1秒あたりのカウント数に変換し、図3の関係から果実あるいは房の密度を推定します（詳しくは「⑦樹種毎の係数」をご覧ください）。

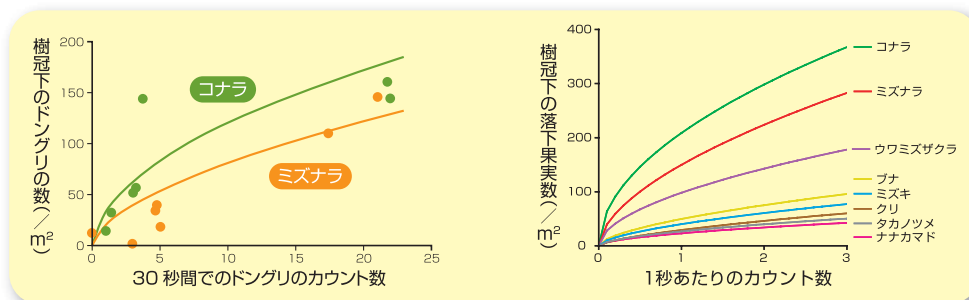


図2 30秒当たりのどんぐりのカウント数と落下果実密度

図3 1秒当たりの果実のカウント数と落下果実密度

## ⑤房内の果実をカウントする

ミズキやタカノツメなど、果実の房を数えた場合は、上記のカウントとは別個に、房を5つほど選んでその中の果実数をカウントし、その平均数を房の密度にかけることで果実密度を推定します。